

Editor's **S**ketchbook **出張版**

ライバル多き増刊号！

謹んで増刊号をお届けいたします。本邦には皮膚科専門誌が数誌ありますが、この時期は各社増刊号増大号が目白押しです。さらに皮膚科関連の単行本がお目見えするのもこの時期です。皆様ご存知の通り、これらは日本皮膚科学会総会で競うようにお披露目されます。以前、本誌編集なんぞに携わらない時代は、総会での書籍展示をみるのが楽しみで、興味深い内容はもちろん、創意工夫されたタイトルと表紙を見比べながらほくそ笑んでおりました。しかし現在、企画側となると話は別。どれだけ多くの先生方に興味を持って頂けるのか、書籍展示を随時気にしながら、本誌を手にする先生をみては安堵し他誌を購入する場面をみては悄気こむなど一喜一憂。情報交換会での乾杯が美酒となるかヤケ酒となるかはココで決まります。今回、少しは遊び心も……とばかり門野編集長との不思議な写真(p.122)も掲載いたしました。わかっていただけましたか？ 正解は“VD”，つまりビジュアルダーマトロジーを表現しております。

無論、医学誌である以上、売上だけを考えテーマを決定するものではありません。今回の皮脂欠乏症はアカデミックなトピックが近年次々と報告されているホットかつ永遠のテーマであり、皮膚科専門医が世間に正しく啓発する責務を負うものです。本誌の性格上、政治的側面には介入できませんでしたが、“皮脂欠乏学”ともいえる皮膚科学の進歩と実践を普く医療従事者に“教養”として理解して頂き、患者からのついでに要求に対して皮疹も確認せずホイホイと保湿剤を処方するなどの皮膚科学を閑却する愚行がなくなるよう、切に願いながら本誌を世に送り出しましょう！（まるで我が子の旅立ちの瞬間ですね……）

さて、本誌編集部も久々に前担当U氏が戻って参りました。皮膚科学が大好きなU氏はさぞ水を得た魚の如き仕事をしているか……と思いきや、当面は他部署と兼務のうえ、本誌と7月号を同時編集せねばならず日々忙殺されています。ただ、総会書籍展示には敵情視察を兼ねて現れます。筆者とコンコン会場を彷徨う姿をお見かけの先生方、どうぞお気軽にお声をおかけください。本号のみならず、本誌のご感想やアイデアを忌憚なくお寄せ頂ければとても有難いです。筆者が責任を持って編集会議に反映させます。もし、ご慧眼が増刊号のテーマとなった暁には、是非筆者と総会書籍展示をパトロールしましょう！その後、美酒乾杯です！（ご賢察のとおり情報交換会のもらい酒ですが……）

(安部 正敏)